

厚生労働省行政事業レビュー講評 議事概要

1. 日 時

令和4年8月31日（水）14:00～14:55

2. 場 所

厚生労働省専用第13会議室（21階国会側）※外部有識者はオンライン

3. 出席者

外部有識者：井出委員、伊藤委員、大屋委員、栗原委員、滝澤委員、元吉委員、横田委員

※増田委員、松原委員は書面講評

厚生労働省：本田厚生労働大臣政務官、総括審議官（行政改革推進室長）、大臣官房会計課長、会計管理官、参事官（調査分析・評価担当）

4. 議事内容

（議題）令和4年度行政事業レビュー講評

厚生労働省から令和4年度公開プロセス対象事業の点検結果、令和4年度外部有識者点検対象事業の点検結果について説明。その後、外部有識者から令和4年度行政事業レビューの取組を踏まえた評価すべき点や改善点等について講評。

なお、外部有識者からの主な講評の内容は次のとおり。

（井出委員）

- 今年度も取りまとめ役をお引き受けいただいた栗原委員に御礼を申し上げる。
- 今年も公開プロセスで2つの事業に携わったが、それぞれに課題がある一方で、レビューされた先生方の意見や担当部局の見直し案により、今後よりよい事業展開がなされることを期待している。
- 厚生労働省の数ある事業や政策は信念をもってやっていると思うが、外部からチェックを受ける、担当の部局も緊張感をもって臨むことは必要なこと。これからも行政事業レビューを実施することはいいが、同時にレビューのあり方もレビューする時期に来ていると思う。

(伊藤委員)

- 選定事業の予算規模に関するメリハリが重要ではないか。対象候補となる 10 事業を適切に選ぶことが公開プロセスを適切に行う上で必要だと考えている。
- 予算額が小さな予算事業でも重要な事業はあるが、予算規模が大きいということはそれだけ国民の税負担にかかる金額が大きいという観点もあると考えられる。
- 今年度の候補事業は全 10 事業のうち、7 事業が 1 億円以上 10 億円未満の予算規模であった。それだけでダメと言う訳ではないが、もう少し厚生労働省の予算規模に応じた事業選定を行っていただきたいと考える。ある程度予算規模が大きく、国民生活にインパクトのある事業を、今後ある程度の割合で選定することが予算決算のレビューという点を鑑みると重要である。
- 一方で、特別会計に関連する事業は予算規模も大きいので、取り扱う場合には、重点的なくつかの内容に絞るなど、時間や内容にメリハリを持った対応を行うように事務局において検討してほしい。
- 以上の観点で、事務局においては、何を公開プロセスの候補事業にするのかという点に関する基準や考え方の精査をより一層お願いしたい。

(大屋委員)

- 公開プロセスについて、最終的にどこに着目するか、どういう価値観を持つのかという点で意見が分かれることになったが、外部有識者の指摘に対して、事務方が全く考えていなかった、フォローしていなかったという部分はなかったと思う。
- 書面審査も含めると、目標設定の際に未だ「対前年度比」という意識で作成されているレビューシートが多い印象。アウトカムは施策の実施の結果として社会に生じた影響を測るものであるので、社会の現状から達成すべき目標・目的像に対してどうあるかという観点で設定されるのが望ましい。その観点から言うと、目標設定のやり方が過去の繰り返しでやっている前例踏襲主義だと厳しい。
- アウトカム指標については、行革事務局側が、とにかく設定するということを推進してきたが、各省庁側もアウトカム指標がない事業については、きちんと行革事務局にアウトカム指標がない旨の主張を行うべきである。

(栗原委員)

- 公開プロセスについて、現地視察を行う機会があったが、現場レベルでの活動をヒアリングできたことは非常に有意義であった。
- 公開プロセス対象事業について、エビデンスのためのデータ収集や収集したデータをどう活用するのかという点でいくつかの事業に共通の課題が見られた。
- 評価したい点は以下の 2 点。1 点目は、地域包括ケア「見える化」事業はよく出来たシステムであると感じた。こういった「見える化」が介護分野以外でも広がる事を期待するし、デジタル庁等とも共有して好事例として横展開してほしい。もう 1 点は特定健康診査・保健指導事業において、他省庁の健康経営と連携し事業者の取り組み

を促進してはどうかとコメントしたが、厚生労働省の保有している保険者単位のデータを事業主単位に工夫するなどして連携を図る対応していただいております、そうしたレビュー後の対応について評価したい。紹介して頂くと良い。

- 書面審査については、新規事業が多い一方で、廃止する事業は非常に少ないという印象を受けた。事業が増加する一方では行政の組織内でも対応が難しくなると思うので、成果の目標年度と事業の終了年度は必ずしも一致するわけではないが、事業の終了年度、事業継続の見直しのタイミングを設定できないかという視点で今一度事業を見直して欲しい。また、長期にわたって実施している実証事業に対して国がいつまで支援を続けるのか、集中的に支援をしてどこかの時点で自立させるといったことも検討する必要あるのではないかと。感染症対策事業については、活動内容が書面では分かりづらいものがあつたので、額だけではなく、活動指標をきちんと把握し、外部に説明できるよう、引き続き点検して頂きたい。

(滝澤委員)

- 公開プロセス対象事業候補リストについて、厚生労働省は取り組む事業が幅広く、対象とすべき事業がたくさんあると思うが、その中でも重要性及び緊急性の高い事業を今後も選出していく必要があるのではないかと。
- 日程調整のやり方について、省庁横断的にスケジュールを一括で調整できるシステムを作っていただきたい。

(元吉委員)

- 書面審査を担当したが、感染症等非常時に緊急対応して創設された新規事業がいくつもあつた。これらには予算や契約方法、短期終了など共通する特徴があつた。できれば書面審査後に一括して検証する場を設ける機会があればよいと考えられる。
- 行政事業レビューの目的には、コスト削減だけでなく、事業の効率化や効果の最大化もある。よって、反映状況の取りまとめにおいては、概算要求への反映額のみに限らず、「執行等改善」「年度内に改善を検討」する事業についても反映内容の特色をとらえて共有をいただきたい。
- レビューシートの記載では、関連事業には、類似事業のみが記されている。事業を連携して効果を高めるためには、幅広く関連事業をとらえた連携策を付記する必要がある。国費投入の必要性については、「必要だから優先度が高い」との解釈が多く見られた。重要度と緊急度を考慮するなど優先度の定義を明確にする必要がある。過去にも伝えているが、これらを徹底するには記入要領の改定が求められる。
- 事業単位では見直しが困難な事業がある。公開案件では、規模の大きな事業は分割せず一括にするとか、施策単位でレビューする対象にすれば良いと思う。
- 書面審査における外部有識者と担当部局のやりとり段階での修正は、事実誤認・誤記に限って行い、それ以上の修正はレビュー後の反映段階で行えばよいはず。一部順番が異なって運営されていた。

(横田委員)

- 書面審査を担当したが、2点だけ申し上げたい。結構大規模な事業で、複数の事業に分かれているレビューシートがあり、その統括版のレビューシートを担当した。その際、個別の事業にコメントされた先生方の意見を参考にして、書面審査を実施した。そうした個別のコメントをみないと総括的なコメントができないので、そうした工夫は必要と感じた。
- 新型コロナウイルス関連事業が多かったというのが印象。緊急対応で予算の積算は難しかったと想像する。今後の大災害や感染症の対応などに備えて効果検証などの総括をしっかり行い、緊急時の予算積算や施策立案対応に活かしていただければと思う。

(増田委員) ※書面講評

- 公開プロセス対象事業の「医療・介護サービスの提供体制改革のための基金」は重い内容であり、十分な時間をかけて意見を伺い、議論したかった。
- 公開プロセスでは、コロナのために限られた対応になったが、やはり担当部局と各委員の対面方式での意見交換のほうが深度ある検討ができたのではないかと。
- 書面審査では、事業開始直後ないしは最終年度のものがあり、前者は実績がなく意見を述べるのが難しく、後者は当該事業が継続しないので意見を述べる必要がないように思う。

(松原委員) ※書面講評

- フリーター支援事業の行政事業レビューとしてわかものハローワークを訪問したが、場所が分かりづらかった。わかりやすい表示なり、更なる工夫をお願いしたい。マーケティングの視点を持って頂きたい。
- しかし、建物内はゆったりした空間があり、相談しやすい雰囲気になっていると思った。若者に特化することで、一般のハローワークよりも実績を作っているノウハウを、全国に横展開（オンラインの活用等）し、効果や効率をあげてほしい。
- また、若者の正社員化を促進する本事業の一番の中心となるナビゲーターを、公務員の枠の縛りのため非常勤で運営しているのは問題。これではせっかくのノウハウも蓄積されない。行政事業レビューの範囲を超えた話であり、税金を投入する以上、無駄や非効率を許されないが、効率化を図るあまりミクロでは効率化を図っているつもりが、マクロでは非効率をもたらしていないか、部分最適ではなく全体最適の思考で、行政全体で再考して頂きたい。

(以上)